

『平成中学校区に伝わる伝統行事』 伝承活動の取組

1 学校名

薩摩川内市立平成中学校

2 学年・人数

中学1・2・3年 18名

3 日時・場所

- (1) 練習の日時・場所 7月～9月 各地区コミセン
- (2) 発表の日時・場所
 - ア 城上地区 8月6日(日) 午前 城上小学校, 児美神社
 - イ 陽成地区 8月6日(日) 午後 一條神社
 - ウ 高城地区 9月10日(日) 午後 高城神社

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能, 伝統行事について

(1) 名称

- ア 太鼓踊り (たいこおどり) 城上・陽成・高城地区
- イ 虚無僧踊り (こむそうおどり) 高城地区

(2) 由来

ア 太鼓踊り

太鼓踊りの起源は定かではないが、高城町の太鼓踊りについては朝鮮出兵や関ヶ原の戦いに高城郡からも多数出陣した。その時、留守を守る人々を慰めるために始められたという説や、高城神社創建(1606年)の際、領主高来重雄居士の遺徳を偲んで、領民こぞって奉納するようになったともいわれている。

イ 虚無僧踊り

江戸時代に盛行した禅宗の一派である普化宗というのがあり、その宗派の僧侶が深編笠をかぶり、絹布の小袖の丸ぐけの帯をしめ、首には袈裟をかけ、刀を帯びた僧侶が尺八を吹きながら諸国を行脚修行していた姿を由来とする。

(3) 構成等

ア 太鼓踊り

年若で小柄な者の入れ太鼓, それに続く入れ鉦, 音色の違うやや大きめの鉦, これらの人々はそれぞれ趣向を凝らした花笠をかぶる。入れ太鼓はかすりの着物に花笠。鉦の者も花笠で, 花笠にはすだれ風の色紙を周りに垂らして顔も定かには分からない。太鼓の人は白づくめの襦袢やももひき, 上半身にははんでんをまとい, 馬のしっぽの毛をあしらった笠をきりりとかぶり背中には2メートルあまりの鉦を背負っている。このような出で立ちで, 鉦の合図を皮切りに太鼓を打ち鳴らしながら, 輪になったり列をつくったりしながら踊る。中学生は鉦や太鼓などをそれぞれ演じており, 男女・学年等関係なく, 多くの生徒が参加している。

イ 虚無僧踊り

10人くらいの一隊（主として女性）が美しい音色の三味線のリズムに合わせて、手に尺八を持って、きちつきちっと節度をつけて踊る。見るからに上品端正で、華やかというよりもむしろ禅の世界に通じる「わび」の境地を思わせる。高来校区では、毎年中学2年生の女子生徒が出演することになっている。

5 保存会や地域との連携の具体

各地域の保存会，コミュニティ，青年団，壮年団等の指導のもと，1か月に渡って練習に取り組んでいる。中学校へも6月頃に打診があり，多くの生徒の参加を呼びかけている。比較的生徒数の多い高城地区では，主に中学2年生の参加が中心になっている。陽成地区では生徒数が少ないため，学年に関係なく全生徒が参加しているなど，地域によって実情は異なっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

校内掲示や学校便り等で活動の紹介をしている。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【城上地区太鼓踊り】



【陽成地区太鼓踊り】



【高来地区太鼓踊り】



【高来地区虚無僧踊り】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

小・中学生が地域の方々からの熱心な指導や励ましに支えられ1か月ほど練習に励み，本番では観客から多くの声援や称賛を受け，達成感や成就感を味わうことができた。校区全体を見ると高齢化や過疎化が進んでおり，児童・生徒が継承者として頼もしい存在となっている。地域の方々からも伝統芸能の継承者として期待は大きい。地域の活性化のために大切な取組となっている。